５つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

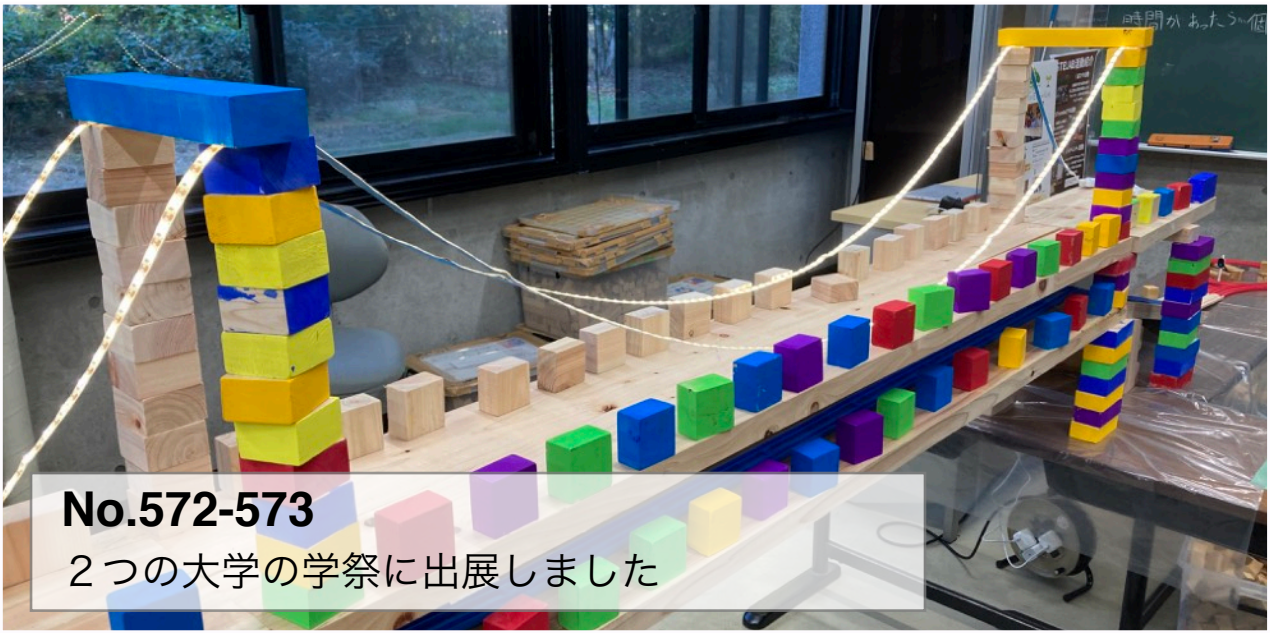
知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
草莽荘の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp



【定例活動報告】小手澤の森

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

11月第1日曜日の活動は学芸大小金井祭のため、大人ばかりで、小手澤の森で果樹や花木の手入れを実施しました。地元中学生も一名参加してくれてクワの木の伐木をしたり、柚子の果実を収穫したりと大活躍してくれました。私も柿の木や柚子の木周辺の下草刈りを電動ヘッジトリマで作業し、柚子の木に登り、鋭いとげと悪戦苦闘をしながら、剪定する枝の指示をもらい、鋸や鋏で切って風通しを良くしました。作業中、柚子のいい香りがあたりいっぱいに広がったときは、とげの刺さる恐怖や高所の恐怖が払しょくされた気がしました。

第3日曜日の活動も中学生は定期試験のため参加がなく、大人ばかりいつもより少人数で東屋付近の枯木の伐木や薪割を行いました。枯木の伐木は最初、ノコギリで作業を始めましたが、意外と材の中心部が朽ちていなく非

常に硬くなっていたため、結局はチェーンソーで切り倒してしまいました。薪割は、キンドリングクラッカーと掛矢で楽しく夢中になって作業できました。

ここで作った薪は学芸大学に運ばれるとのことでしたので、私も子供を大学内のプレーパークに連れて行った際には少し分けていただいて使えることを楽しみにしています。

小手澤の森も上述の通りいろいろと手は入れておりますが、階段の手すりが朽ちてきてしまっていますので、近いうちに竹などで作り直したり補修必要な状況で、やることはなかなか多いなと感じています。

右の写真は湯元さんが作られたバイオネスト（剪定枝のコンポスト）　　湯元　啓之（本会、会員）

【GREEN TECH ENGINEER LABの活動から】

今月は定例活動日に大学の学園祭や定期試験が重なったため、中学生の森の参加はありませんでした。定例活動日に行った活動を報告します。

今回の小金井祭は、一年生が主体となって企画させていただきました。大学生の先輩方、そして二年生の先輩方にも協力していただきました。ありがとうございました。

企画名は「想いをつなぐ積み木」。内容は、展示として積み木で作ったレインボーブリッジを見てもらい、積み木を使って橋を作ってもらうというものと、予約していただいた参加者の小学生には、目玉展示であるレインボーブリッジの積み木に色を塗ってもらい、実際にレインボーブリッジを虹色に染めて完成させるというものの二つです。

レインボーブリッジの展示というのは大人の参加者に、積み木でオリジナルの橋を作るというのは子供の参加者にそれぞれ楽しんでもらうことができ、どちらの年代層でも楽しめる企画であると同時に、ラボの活動内容を広めるいい機会になったと思います。

一日目にご来場いただいた調布（府中だったかもしれないです）の小学校で教師をしているという参加者の方には、二日目も参加していただき、「他の小学校もこういったイベントは開催してほしいと思う」「中学一年生が主体とは驚いた。これからも頑張ってほしい」という旨の応援をいただきました。

しかし、二日目のワークショップ、小学生参加型の企画のほうは、直前まで時間の配分が決まっていなかったこと、役割の分担も直前まで決まっていなかったこと、プレゼンやクイズなどを実際に練習していなかったため、かかる時間が分からなかったことなど、準備不足や段取りの悪さが目立ってしまい、最終的には宮村先生に頼るという結果になってしまったところが主な反省点として挙げられると思います。

GREEN TECH ENGINEER LAB
中学１年生男子

＜３ページ、桜井先生のコラムの下に続きます＞

桜井尚武の森のコラム

「エノキ(*Celtis sinensis*)」

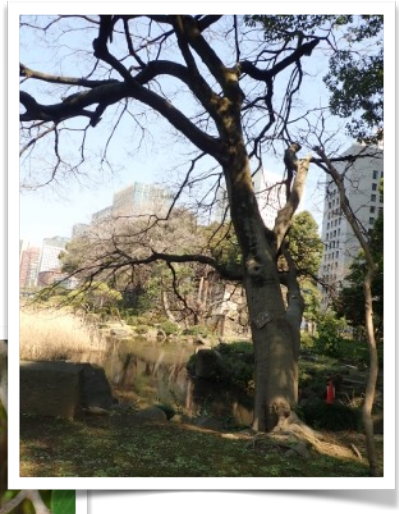


図1　エノキの樹形

20190315日比谷公園

図2　エノキの葉

20221030汐入公園

図3　エノキの橙色の果実

_20220930汐入公園

ニレ科エノキ属の樹高20m、直径1m以上になる落葉の大高木(図1)。

葉は4～8cm程度の卵形ないし楕円形で浅い鋸歯があり互生します。葉の基部から中肋をはさんで2本の目立つ支脈が走ります、そしてその中肋の左右が対称でないのが特徴です(図2)。花は雄花と両性花を持ち4月頃に新葉と共に開く、雄花は前年枝の葉の付け根に束生するか当年枝の下方あるいは葉の付け根に2、3個付くといいますが、花の咲く場所は高いので私はまだ見たことがありません。果実は丸い核果で7mm程度と小さく橙色に熟し食べられます(図3）。干し柿に似た味がします。

本州、四国、九州の山地帯下部に普通で人家近くにもよく見られます、朝鮮、中国南部、インドシナにも分布します。

大きくなり材もやや硬くしっかりしているので建築材、家具、運動具、薪炭材に使われました。

エノキの語源にはこの木の葉や果実、樹液には様々な動物が集まるので「エサノキ」といったのがエノキに転じたという説がありました。また道具の柄に使われるから「柄の木」、良く燃えるので「燃えの木」、地域の境界に植えられるので「塞（さえ）の神の木」等数多くありますが定説はありません。漢字では榎と書きますが夏の暑い日に大きな日陰を提供する大事な木という意味です。この字は日本で作られた国字でエノキの重要性を顕わしています。

この樹種には色んな民俗的話題があります。その1つは古くは神が降下する木として信仰の対象であったという植物学者の前川文夫氏の説です。長野県の諏訪明神にある「タタイ木」はエノキのことで、タタイの木⇒タタエの木⇒エノキと変化したと説明したといいます。諏訪明神には諏訪の7木と名付けた色々な樹種に湛木（たたえき）の呼称をつけて神性を強調していますがこのことを指しているようです。一里塚や屋敷の北西に植えられることがありましたがこれも神性を重視した名残という説もあります。江戸時代に一里塚を整備した時にどんな木を植えようかと担当奉行が思案したら徳川家康が「一里塚には余の木（マツ以外の木)を植えよ」といったのを「ええ木≒エノキ」と聞き違えたという話があるといいますが、そんなじゃれ話でない深い意味があるようです。

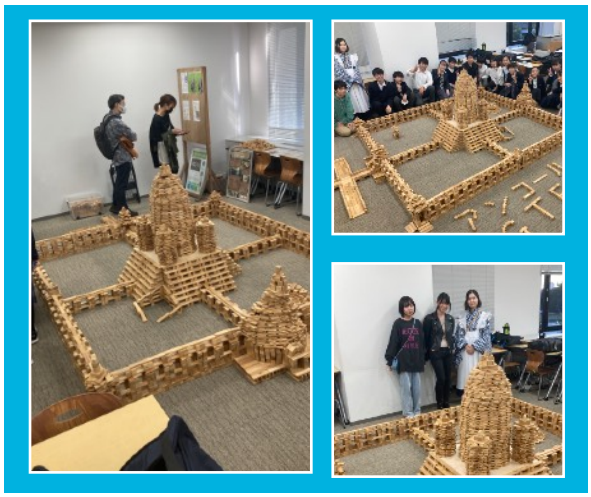
桜井　尚武（本会、会員）

＜GREEN　TECH ENGINEER LABの報告の続きになります＞

11/2,3の2日間、上智大学ソフィア祭で積み木2万個を用いたアンコール・ワットの展示を行いました。1日目は高井戸中学校地球環境部出身の大学生2人で3時間で作品を完成させて展示したのですが、平日であったにも関わらず午前中から絶えず人が訪れて大盛況でした。作品がたった3種類の積み木でできてい

ることに驚く人が多かったのが印象に残っています。2日目は東京学芸大学附属小金井中学校の生徒さん達が来て、アンコールワットを再度作り直して展示しました。中学生が手早く作品を作り上げていく様子が面白かったのか足を止める人は多く、学生が主体となって活動している緑のダムの活動に興味を示してくれた人もいました。思えば私が中学生の頃に同大学のオールソフィアンズフェスティバルで積み木展示を行った時以来の久しぶりの上智大学と緑のダムのコラボレーションでしたが、懐かしさもあり新鮮さもある良い催しとなったように思います。

込山　春歌（上智大学文学部）



さらに11月には活動する森の目の前にあります北相中学校にて総合学習２時間を、こちらも毎年恒例の東海大高輪台高校SSHの事前授業を続けて担当しました。今回はどちらも森のボードゲームに挑戦してもらいました。本会監修で小学生向けに制作したものですが中学生も高校生も夢中でやってくれました。最低限度儲かればいいんじゃね、という声があったので急きょ映画「WODDJOB」のあのシーンを見ました。「自分が生きとるうちのことしか考えてへんやろ、先祖が植えたもん全部売ったったら俺らの次の世代、その次の世代はどうするんや」苗木を植え続けないければいけない話です。今の我々の感覚と違うところ、無くしてしまったところ、ふと思い出してもらえる授業になったと思います。

宮村　連理（本会、副理事長）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
コンサベーション・アライアンス・ジャパン
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　CAJ Conservation Alliance Japan 一般社団法人 コンサベーション・アライアンス・ジャパン